

## 切除不能進行・再発胃がんに対するカペシタビン、オキサリプラチン、イリノテカン併用療法（XELOXIRI療法）の第I相試験

### 目的

胃がんのなかでも、再発や転移をきたした患者さんには、主に抗がん剤治療が行われます。胃がんへの初回の治療としては、フッ化ピリミジン系の薬剤（商品名ゼローダ、ティーエスワンなど）とプラチナ系の薬剤（商品名ランダ、エルプラットなど）を組み合わせる治療が最も有効と考えられています。

ただ、この「今のところ最も有効と考えられる治療」をもってしても、生存期間の中央値は1年強と十分なものではありません。そのため、より有効な治療を目指してさまざまな治療が検討されています。

本臨床試験では、フッ化ピリミジン系のカペシタビン（商品名ゼローダ）と、プラチナ系のオキサリプラチン（商品名エルプラット）に、同じく胃がんに対して有効であることがわかっているイリノテカン（商品名カンプトまたはトポテシン）という薬剤を加えることによって、より有効な治療になるのではないか、という考えに基づき、この3つの治療薬の組み合わせの最適な投与量を検討しています。

本試験は当院（九州大学病院別府病院）を中心として、4つの施設が共同で行っています。